

建築研究所 ニュース



令和元年5月14日

中南米諸国7ヶ国11名の構造技術者及び建築担当の行政官を対象とした国際地震工学研修を実施します。

国立研究開発法人建築研究所では、国際地震工学研修の短期研修として、「中南米地震工学研修」を5月16日から実施します（技術者グループはエルサルバドルでの在外研修を含め7月26日まで、行政官グループは6月6日まで）。参加する国と人数は、チリ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、メキシコ、ニカラグア、ペルーの7ヶ国から選ばれた構造技術者9名及び建築担当の行政官2名となっています。

中南米（ラテンアメリカ）諸国は地震が頻発する地域ですが、耐震建築の技術普及が遅れており、地震による建物の崩壊でこれまで多くの人的・物的被害が発生し、人材育成が急務となっています。

この研修では、建物の耐震設計・施工・診断・補強の技術と制度を講義・構造実験等により習得させ、中南米地域での地震発生時の被害の軽減を目指しています。

研修をより効果的に実施するため、講義はスペイン語で、構造実験はエルサルバドル共和国の国立エルサルバドル大学等において2週間（7月15日～7月26日）をかけて実施します。なお、構造実験には、当所で実施している1年間の研修コースで過去に学んだことのある帰国研修生が講師として参加します。

本研修によって、構造技術者と建築担当の行政官の耐震技術の習得を通じた相互理解及び人脈形成がはかられ、各国の耐震対策が緊要と考えられる住宅、学校、病院等の建築物に関する耐震技術が普及することが期待されます。

なお、本研修は、JICAの3カ年計画（平成29年度～令和元年度）の一環として行われます。

<参考1：開講式の日程>

第5回中南米地震工学研修 開講式

日時：令和元年5月16日（木）11:00～

場所：国立研究開発法人建築研究所2階講堂（つくば市立原1）

<参考2：これまでの研修修了者数>

- ・中南米地震工学研修：11ヶ国から 81名（うち建築担当の行政官は11名）
- ・国際地震工学研修：102ヶ国から1,876名（中南米地震工学研修含む）

（内容及び開講式取材の問合せ先）

国立研究開発法人 建築研究所

（つくば市立原1）

所属 国際地震工学センター

職名 管理室長

氏名 山田高広

電話 029-879-0678(直通)

e-mail yamada@kenken.go.jp